

1. 評価報告概要表

作成日平成19年12月18日

【評価実施概要】

事業所番号	4071101770
法人名	有限会社 めぐみ
事業所名	グループホーム のため
所在地 (電話番号)	福岡県福岡市南区野多目5丁目20-12 (電話) 092-565-0300

評価機関名	株式会社 アトル		
所在地	福岡県福岡市博多区半道橋 2 - 2 - 51		
訪問調査日	平成19年12月6日	評価確定日	平成20年1月9日

【情報提供票より】(19年10月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17年 1月 1日			
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人	
職員数	10 人	常勤 6人, 非常勤	4人, 常勤換算	7.8人

(2) 建物概要

建物形態	併設 ☒ 単独 ☐	新築 ☒ 改築 ☐
建物構造	木造 造り	2 階建ての 1 階 ~ 2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	7000 ~ 17,000 円
敷金	有 (円)	無 ☒	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (315,000 円) 無 ☒	有りの場合 償却の有無	有 ☒ 無 ☐
食材料費	朝食 300 円 夕食 400 円 または1日当たり 円	昼食 400 円 おやつ 100 円	

(4) 利用者の概要 (10月1日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	1 名	要介護2	1 名		
要介護3	2 名	要介護4	5 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 81.2 歳	最低 65 歳	最高 94 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	松田脳神経外科、さかい循環器内科、松永病院、夫婦石病院、前田歯科
---------	----------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

閑静な住宅街に位置し、一般の民家のような佇まいである。職員は看護師が多く、医療連携もしやすいこともあり、医療的リスクの高い利用者が多いが、利用者は活発に家事の手伝いをしたり、歌ったりして思い思いに過ごしている。リビングに話し声や歌や笑顔の絶えない、家庭的でにぎやかな、元気のあるホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回の外部評価では、運営理念の啓発や時の見当識への配慮、成年後見制度の活用、市町村との関わりなどの課題があげられていたが、評価後に職員全員で改善策を話し合い、運営推進会議で報告するなど、積極的に取り組んでいる。時の見当識への配慮や成年後見制度の活用については、改善が確認されている。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 今回の自己評価は職員全員で話し合いの場をもち、意見をまとめて管理者が記入している。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 運営推進会議は2~3ヶ月に1度開催しており、民生委員、地域包括支援センター職員、社会福祉士や利用者、家族等が参加して、ホームの現状や活動報告、意見交換を行っている。地域の情報を貰ったり、依頼をされたりする場としても活用されている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9) 家族の面会時には利用者の暮らしぶりや、今後の介護計画の報告や意見交換を行っている。また、運営推進会議、家族会などでも意見を聞く場を設けている。あまり意見を言われることはないが、ホーム内外の相談窓口を明示し、何かあればいつでも言ってもらえるよう日々声をかけている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 町内会での夏祭りやふれあいサロン、ハザーに参加したり、近所の一人暮らしのお年寄りへ声をかけ、いつでも立ち寄りもらえるよう関係作りを行う等、様々な活動を行い積極的に地域の人々との交流とホームのPRに努めている。今後は小・中学校の体験学習の受け入れや、回覧板にホームでの催しの案内を載せたり、教室を開くなど、ホームに地域の人を招く試みを検討中であり、地域の人々との交流がますます深まることが期待される。

2. 評価報告書

( 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○ 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者が主体性を持ち、その人らしく、安心と尊厳のある生活を送ることができるよう、独自の理念を掲げている。地域密着型サービスとしての理念はまだ追加されていない。	○	理念の文面が長く、堅苦しい印象を受けるため、簡単にまとめたやさしい言葉で理念を追加することで、職員だけでなく利用者やその家族にも伝わりやすくなり、理念の共有に役立つと期待される。また、地域密着型サービスとしての理念も追加し、地域での役割を明確にしておくことが望ましい。
2	2	○ 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を掲示し、職員の採用時には説明を十分に行い、月例会議で日々のケアが理念に通じるものであるかを職員全員で振り返り、職員の意識を統一することで、理念の実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○ 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会での夏祭りやふれあいサロン、バザーに参加したり、近所の一人暮らしのお年寄りに声をかけいつでも立ち寄ってもらえるよう関係作りを行う等、様々な活動を行い積極的に地域の人々との交流とホームのPRに努めている。	○	小・中学校の体験学習の受け入れや、回覧板にホームでの催しの案内を載せたり、教室を開くなどのホームに地域の人を招く試みを検討中である。地域の人々との交流がますます深まることが期待される。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○ 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価は職員全員で話し合いの場をもち、意見をまとめて管理者が記入している。前回の外部評価では、運営理念の啓発や時の見当識への配慮、成年後見制度の活用、市町村との関わりなどの課題があげられていたが、評価後に職員全員で改善策を話し合い、積極的に取り組んでいる。		
5	8	○ 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2～3ヶ月に1度開催しており、民生委員、地域包括支援センター職員、社会福祉士や利用者、家族等が参加して、ホームの現状や活動報告、意見交換を行っている。地域の情報を貰ったり、依頼をされたりする場としても活用されている。		

グループホーム のため

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者は何か疑問があれば市町村担当者を訪ね相談し、市町村との連携を図っている。	○	市町村の担当職員の異動などで関係作りが困難な面もあるが、運営推進会議への参加依頼や相談だけでなく、ホームのパンフレットを置いてもらうなどホーム側から積極的に働きかけ連絡を取り合うことで、ますます連携を強めていくことが望まれる。
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	権利擁護に関しては利用者、家族へ入居時に説明している。また、ホーム内外の研修で職員全員で制度を学び、パンフレットを常備して必要に応じていつでも説明できるよう準備している。		
4.理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会時には利用者の暮らしぶりや、今後の介護計画の報告や意見交換を行っている。金銭管理については毎月請求書を送付して報告している。また、毎月の活動状況や利用者の様子を写真で掲載したホームだよりを発行しており、定期的及び個々にあわせた報告を行っている。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時や運営推進会議、家族会などで意見を聞く場を設けている。あまり意見を言われることはないが、ホーム内外の相談窓口を明示し、何かあればいつでも言ってもらえるよう日々声をかけている。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の離職は少なく、馴染みの職員による支援が実践できている。家族の希望等も考慮して異動も最小限にし、利用者へのダメージを防ぐ配慮がなされている。		

グループホーム のため

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5.人材の育成と支援					
11	19	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	管理者は職員の採用の際は性別や年齢より先その人の笑顔など人格を重視している。また、研修などの希望も考慮して勤務を調整し、その能力を発揮して生き生きと勤務できるよう配慮している。		
12	20	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	管理者、職員は積極的に人権に関する研修会に参加し、職員全員に伝達、意見交換を行って、情報の共有と意識の統一を図っている。		
13	21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は、研修会の案内があればその都度職員に紹介し、希望があれば可能な範囲内で勤務調整も行っている。受講後は内容を報告する場を設け、職員全員で情報を共有することで、働きながらのトレーニングを進めている。		
14	22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に参加し、研修会や意見交換会などを通じて他のグループホームの職員とも交流を図っている。相互訪問や、法人内施設と合同の勉強会や催しなどを通じて、サービスの質の向上のために取り組んでいる。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1.相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービス開始前にはホームの見学や、2、3泊程度の体験入居によりホームの雰囲気を味わってもらうようにしている。家族から利用者の情報を聞き出し、相談しながら利用者が徐々に馴染めるよう工夫している。		

グループホーム のため

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2.新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	○ 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者との関係に壁を作らず、介護しているという立場ではなく対等に接するよう心がけ、利用者から生活の知恵などを教わりながら支えあう関係を築いている。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1.一人ひとりの把握					
17	35	○ 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の表情や会話だけでなく、生活歴や趣味、行動、家族からの聞き取りなど、さまざまな側面から、思いや意向の把握に努めている。		
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	○ チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画作成の際は利用者や家族とも話し合い、月例会議で職員全員で意見を出し合っている。		
19	39	○ 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	モニタリングは3ヶ月に1度、状態変化があればその都度介護計画の見直しを行っている。見直しの際は利用者や家族にも伝え、希望や意見を取り入れるよう配慮している。		

グループホーム のため

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3.多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	日々の希望に応じた外出、職員付き添いでの受診、家族との外出、入院時は洗濯物をとりに行くなど、利用者や家族の希望に応じて柔軟に支援している。		
4.本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	職員が付き添い、利用者それぞれのかかりつけ医へ受診するとともに、月に2回は協力医療機関の往診があり、個々の希望に応じた適切な医療が受けられるよう支援している。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看護師が常勤し、協力医療機関と連携をとりながら、急変時も緊急連絡のマニュアルによる迅速な対応が可能である。家族や利用者の希望があればホーム内での看取りも可能で、起こりうる可能性のあることを予測しながらその都度話し合い、方針を共有している。		
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1.その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人の記録は職員が常に目が届き、利用者や家族にはわかりにくい場所に保管している。また、ホームだよりでの写真の掲載等には同意を得ている。言葉遣い等については月例会議で全員で確認し、尊敬と親しみのある言葉遣いを心がけている。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の決まりごとや時間を優先するのではなく、利用者の希望に応じて臨機応変に対応している。利用者は、歌を歌ったり部屋で眠ったり、談笑したりして、思い思いにのんびりと過ごしている。		

グループホーム のため

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の状態や好みに応じて、食事の準備や後片付けを職員と一緒にしている。また職員は利用者の食事を見守り、必要に応じて介助や声かけをしながら利用者と一緒に同じ食事をとり、会話を交わしながら食事の時間を楽しんでいる。		
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週に3日(月、水、金)の入浴日があるが、希望があれば、いつでも昼夜問わず入浴が可能である。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるよう、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の手伝いや洗濯物をたたむだけでなく、歌を歌ったり、カルタをしたり、庭の草むしりをしたり、談笑したりして、利用者それぞれの得意分野や好みを活かした支援を行っている。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	職員や家族が付き添い散歩や買い物、野球観戦など利用者の希望に応じて積極的に外出支援を行っている。		
(4)安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関に鍵はかけておらず、利用者や家族等も自由に出入りが可能である。		
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう動きかけている	消防署の指導を受けながら日勤帯・夜勤帯を想定して年に1度、避難訓練を実施している。近隣の人々にも災害時には協力を依頼しているが、まだ訓練への参加はない。	○	年に2回の訓練の実施と、可能であれば地域の協力者も参加しての避難訓練の実施が望ましい。

グループホーム のため

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の献立は和食中心で、利用者一人ひとりの状態に合わせて食べやすいよう調理し、希望に応じて献立を変更し臨機応変に対応している。水分は食事以外でも毎日10時と15時のおやつの時間に摂取を促し、摂取量が少ない場合は申し送り、食事量、水分量の確保に努めている。		
2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物は家庭的な造りで、共用空間は明るく静かである。ウッドデッキのある庭は四季折々の花が咲き、季節感を取り入れた装飾品、ゆったりとくつろげるソファなど、のんびりと過ごせるような空間づくりがなされている。		
33	85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の家具は持ち込み自由であり、利用者の使い慣れたものを使いやすい位置に配置して、居心地良く過ごせるよう工夫している。		